

服薬アドヒアランスの改善を目的とした用法の変更

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は患者からの聞き取りにより、用法の変更を提案することで服薬アドヒアランスの改善に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

〇さん

▶胃部不快感に対して精査目的で入院した患者。



【持参薬】ファモチジン®D錠(20mg) 1回1錠1日1回夕食後



胃の調子が悪いけん、胃薬もらったんよね。
でも晩酌するときは何か影響したらいかんけん、薬は飲んでないよ。

薬剤師

週にどのくらい晩酌されますか？



ほぼ毎日よ。ははは。



それは困りましたね。
胃の調子が悪いのは続いていますか？



日中に調子が悪いことが多いかな。



そうでしたか。
では服用タイミングを朝食後に変更すると
お薬は毎日飲めそうですか？



朝なら大丈夫！できると思うよ。



では、飲み方の変更をできないか主治医に相談してきますね。



相談後、ファモチジン®は夕食後から朝食後へと変更となった。
その後、〇さんは問題なく内服を継続され胃部不快感の悪化なく経過した。
患者より服薬状況とその背景を聴取することで、服薬アドヒアランス不良となる問題点を抽出し、その改善へとつなげることができた。